2005年12月1日

各　　位

会　社　名　**アステラス製薬株式会社**
代　表　者　代表取締役社長　竹中　登一
コード番号　４５０３
（URL　　http://www.astellas.com/jp）
東証・大証・名証（各第一部）、札幌
決　算　期　3月
問合わせ先　広報部長　　田中　昭弘
Tel：（０３）３２４４－３２０１

米国ゼノポート社の医療用医薬品　疼痛治療剤「XP13512」に関するライセンス契約のお知らせ

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：竹中　登一、以下「アステラス製薬」）は、本日、米国の医薬品会社ゼノポート社（本社：カリフォルニア州サンタクララ、CEO: Ronald W. Barrett, Ph. D.）より、同社が創製し開発中の疼痛治療剤「XP13512（開発コード）」について、日本及びアジアにおいて独占的に開発、販売するライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

XP13512 は、抗てんかん・抗神経因性疼痛薬「ガバペンチン（一般名）」を、ゼノポート社独自のエンジニアド・トランスポート・プロドラッグ技術によってプロドラッグ化した新規化合物です。XP13512 は、腸管全体から広く吸収された後、速やかに薬理活性を有するガバペンチンに代謝されることにより、ガバペンチンの体内動態と治療効果を改良した薬剤です。この改良によりヒトによって異なる吸収率のばらつきを最小限に抑え、安定的な薬効を期待することが出来ます。XP13512 は、米国で実施された臨床試験において、ガバペンチンと比較してより高い血中濃度をより長時間持続することや、神経因性疼痛の一種であるヘルペス後疼痛や下肢静止不能症候群に対して有効であることが確認されています。

このたびの契約締結に伴い、アステラス製薬は、日本及び韓国、台湾、タイ、フィリピン、インドネシアにおける本剤の独占的開発・販売権を取得しました。アステラス製薬は、ゼノポート社に対して契約締結時の 25 百万ドルを含む総額 85 百万ドルの一時金を支払うとともに、製品の販売に応じてロイヤルティーを支払うことになります。第 I 相臨床試験は 2006 年半ばより開始の予定です。当社は、中枢神経領域や糖尿病領域を国内で重点領域と位置付けており、XP13512 がパイプラインに新たに加わることにより、同領域における事業基盤を更に拡大できるものと期待しています。

ゼノポート社は、人体に元来備わっている栄養分吸収メカニズムを利用することで、既存薬の治療効果をより改善した新規化合物を創製、開発することに特化したバイオ医薬品会社です。独自に開発した薬物送達技術により、既存薬のバイオアベイラビリティー（生物学的利用能）や投与回数の改良に取り組んでいます。ゼノポート社は、米国で本剤の下肢静止不能症候群を対象にした第Ⅲ相臨床試験を 2006 年前半に開始する予定です。

以　上